

令和 8 年度主要事業計画

1 資料・情報

- ア 長野県の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料（郷土資料）の網羅的な収集及び保存、活用に努めるとともに、デジタル情報も含めた情報資源構築のあり方について検討を進める。
- イ 「調査相談（レファレンス）」は、利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身につけることを応援するスタンスで実施する。その成果を「レファレンス協同データベース」（運営：国立国会図書館）に事例として登録し、調べ方の発信や知の共有を進めていく。
- ウ 県民誰もが必要とする本にアクセスできる機会を保障するため、相互貸借送料支援及びインターネット貸出を実施する。
- エ 当館資料の利用が、新たな情報の「創造」につながるよう、テーマ展示等の取組みを工夫し実施する。
- オ 「りんごの棚」の設置、拡大読書器、読み上げ器の設置と利用事例の紹介などとおして読書バリアフリーサービスに関する周知を図り、誰でも読書に親しめる環境づくりを進める。
- ※) カ 令和 8 年が長野県 150 周年となるため、当館が収集してきた地域資料に触れられる書庫ツアー等の関連イベントを実施する。
- キ 「旅する本箱」プロジェクトを通じて県内の様々な主体と協働し、公共図書館や書店がない地域においても「身近に本がある」環境を創出する。

2 空間の整備及び多様な情報と出会うための活動の推進

- ア 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」においては、「ラボデザイン会議」や「ラボカフェ」など、公共空間を共に創るかわり代のある取組みを定期的の実施するほか、人と人がつながり合い、新たな社会的価値が創造されていくモデル空間を目指した運営を進める。
- イ 学びの成果をアウトプットし、試行錯誤ができる場所として「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな創造の仕組みを拡げていく。
- ウ 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。
- エ 各フロアコンセプト（1 階児童図書室「体験・発見・やってみ?!」・2 階一般図書室「情報の地図・世界の再発見」）に沿った学びのプログラムを企画・展開する。
- オ 利用者が様々な情報と出会う可能性を増やすことを意図した「体験の貸出」を広く周知するため、当館で実施されるイベント等においてもボードゲーム等のグッズを活用するほか、市町村や学校の図書館に展開する方策について検討を進める。

3 各地域・分野における県民の学びを支える人材育成支援

- ア 県内図書館職員等を対象とした初任者研修や、各館の共通課題を共に検討し運営に活かすことを目指す「これからの公共図書館研究会」の開催等を通じて、地域に貢献する図書館人材の育成に取り組む。
- イ 図書館及び関連領域の全国的な動向把握に努めるほか、県内各地域で開催される実務担当者会議等へ参加し、各館の活動等を把握することにより、公共図書館・学校図書館における研修会の企画・開催をサポートする。
- ウ これからの図書館のあり方を起点として、地域や暮らし、学び等について広く考えるための学びの機会として「信州発・これからの図書館フォーラム」等を開催する。
- エ 信州における地域資源の共有化を図り、新たな知識化・発信を通して地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげることを目指す「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。

4 「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進

- ア 図書館機能の高度化の方策として、県内各種機関所蔵情報のデジタル化・公開支援、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化と、これらを融合し活用する学びを推進する。
- イ 自ら学び、調べるための情報源の充実を図るため、地域資料（郷土資料）のデジタル化を行い「信州ナレッジスクエア」の拡充を進めるとともに、県民の学びの成果や暮らしの記録を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。
- ウ 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」の運営を通じ、読書バリアフリーや学校と連携した活用、地域資料（郷土資料）のデジタル化・公開を進める。